

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

社会福祉援助技術実習を 振りかえって

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 久保 晃利

独立型社会福祉士事務所での実習の学び

私は社会福祉士を目指してから、常に独立型社会福祉士事務所を設立したいと夢に見ていました。幸い体験学習では独立型社会福祉士事務所では学ばせていただくことができ、実習はその所長様にご紹介いただいた別の独立型社会福祉士事務所でも実施することができました。私はここで自分自身の社会福祉士の土台となる多くのことを学びました。その中で2つの学びを述べさせていただきます。

まず、社会福祉士とは何なのかを理解することができました。社会福祉士の核となるのは“環境を調整して整える”ことです。したがって、必要となるのは調整能力といえます。調整をするために知識があって技術がある。その知識や技術を活かしていくためにも自分自身の感性、価値観を磨いていかなければなりません。クライアントの思いを汲み取るために常に自分の感性を研ぎ澄ましていくのです。そして、優秀な社会福祉士、ソーシャルワーカーとは、クライアントに、より多くの選択肢を提供し自己決定してもらうことができることです。クライアントが自己決定するということは、押し付けられたというのではなく自分で決めたという納得したものになります。私自身このような社会福祉士になれるように常に自分を高める努力をしていきたいと思っています。

次に、社会福祉士がもつべき視点を学ぶことができました。私は介護福祉士の養成校から東北福祉大学通信教育部に編入しました。仕事も高齢者の介護をさせていただいている介護福祉士です。実習当初、社会福祉士と介護福祉士の視点の違いというものがよくわかりませんでした。なぜな

ら、現場では介護員も相談員も同じように介助を行っていたからです。しかし、実習において高齢者のデイサービスや指導者とのディスカッション、ケアマネジメント等を通して視点の違いを理解できました。たとえば利用者を捉える時、看護師なら病態を切り口としてその人を捉えていきます。介護福祉士は直接的なケアを切り口として捉えます。社会福祉士は一つの側面を切り口にするのではなく、人と環境を含めた生活全体をみる視点、ホリスティックな視点で人を捉えていくのです。この視点の違いにより他職種が連携することで利用者をより立体的に捉えやすくなります。また、施設においては利用者の環境を整えるだけでなく、職場、職員の働く環境も整えていくことが必要となります。施設全体の環境整備、プランニングという役割が重要なのです。このように、社会福祉士は全体を捉える視点を持たなければならないのです。

実習の学びを現場でどう活かすか

私は今年の3月に東北福祉大学通信教育部を卒業し、社会福祉士になることができました。私の職場は高齢者施設です。利用者に関わらせていただく時は、その人の生活歴、育った環境、文化、家族関係など常にその人の生活の全体像を考えるようになりました。また、利用者が自己決定できる環境、自分の意見を表現しやすい温かい環境作りを目指しています。グループワークなどといった相談援助技術もしっかり“技術”として意識するようになりました。まだやっと社会福祉士としてスタートラインに立ったばかりです。今はしっかりと社会福祉士としての土台作りに励んでいきたいと思います。

これから実習を行う学生の皆さんへ

私は皆さんに何か良いアドバイスを送れるような立場にはございませんので、一つの意見としてお聞きください。一カ月の実習は長いようで、あっという間に終わります。私はとても充実した実習でしたので本当に、あっという間でした。まだまだ実習していたいとお願いしたくらいです。できるなら、私はもっともっと実習指導者とディスカッションをさせていただければ良かったと思っています。毎日毎日カンファレンスやディスカッションの機会を作っていただき多くのことを教えていただきましたが、どれだけ自分の考えを表現できたかと思うと、そんなに多くはなかったように思います。せっかくの実習という貴重な学びの機会なのですから、積極的に疑問や考えを実習指導者に伝えてディスカッションに繋げてほしいと思います。

学習・国家試験

働きながらのレポートやスクーリングは大変だと思います。私も大変でした。私が実習を終えたのは8月1日で、その段階ではまだ未提出のレポートが多く、科目修了試験や卒業試験、スクーリングも残っており、国家試験の勉強までなかなか集中できませんでした。10月に入ってレポート提出の目処がつき、卒業試験を終えた頃、日本社会福祉士会主催の模擬試験を受けました。しかし、全くと言っていいほど問題が解けず、このままじゃ完全に不合格だと思い、焦る気持ちの中、必死で問題集を解きはじめてのを覚えています。それからというもの、徹底して過去問と予想問題と大学の模擬問題を何度も何度も繰り返し解き、少しの空き時間には一問一答の問題集を読みました。幸い合格はできましたが、計画を立てて地道に夏頃から国家試験対策を始めれば焦ることはなかったのかなと思っています。

す。それと模試を受けたことも自分の力を知るうえで良かったと思います。模試を受けたからこそ、このままじゃまずいと思えたのですから。

通信教育部では仕事などで思うような勉強ができない人は多くいらっしゃると思います。自分と同じように焦ったり、気持ち的に追い込まれたりしても、あきらめないで最後まで頑張ってもらいたいと思います。

終わりに

最初に述べさせていただいたように、私は独立型社会福祉士事務所を設立したいという夢をもっています。そのために独立型社会福祉士事務所で勉強したいと思い実習先を自分で探しました。実現に協力してくださった方々に感謝しています。これから実習を受けられる方も自分で学びたいことがあれば、大学からのリストだけではなくそれ以外の実習先を自分自身で探してみるのはいかがでしょうか。

スクーリング・アンケートより(2)

アンケートよりスクーリング講義の感想を抜粋いたしました。

●心理学概論

- ・実生活に即した部分がたくさんあり、子育て中の自分にとって様々振り返る良い機会となりました。無意識下に抑圧されているものについて、いたずらに掘り起こそうとするのではなく、状況に応じた刺激を与えることは忘れてはいけなと感じました。
- ・フロイトの発達論について、本を読むだけでは漠然としていたが、先生の投げかけによりはっきりとポイントをとらえることができました。「パブロフの犬」の古典的条件づけを態度形成に応用することができるのは新しい発見でした。自身でこのように上手に応用していけたら良いなと思いました。先生の心の構造の図が分かり易かったです。

●環境心理学

- ・今まで生活していた我が家の環境について見直すきっかけになりました。何となく生活しにくいと感じていたことが、動線プランニングやゾーンプランニングのバランスが悪かったということが分かりました。リフォームを考慮する上でも活用できる講義でした。
- ・家の中でも職場においても、作業がはかどらないことを、自分の能力や性格が原因と思っていましたが、環境にも目を向け整えることで、もしかしたらよい結果につながるかもしれないと希望がわきました。
- ・居住環境の定義をどの様にとらえたら良いのかと考えていましたが、講義を受けて、考えなどが少しつかめた様な気がします。「空間」という目に見えない実体のない物なのだけれども、人間にとって生きていく上でもコミュニケーションをとる上でも大事なことなのだと思います。

●特講・福祉心理学Ⅰ(表情の心理学)

- ・タイトルからの講義のイメージで受講しましたが、かなり違って理論的でした。この理論を知ること、周囲の人間の表情を見渡してみるのも面白いと感じました。逆に本当の自分の表情を知るの誰なのだろう…と不安にもなります。
- ・以前から表情について興味をもっていたので今回の授業を楽しみにしていました。私が思っているよりも内容が深く、多くの研究者が人間の感情や表情について研究されていることがわかりました。また表情の研究が、警察やNASAで活用されていることを初めて知り、とても興味深いと思いました。